

# 運動学実習

[実習] 第2学年 後期 必修 1単位

《担当者名》○小島 悟 skojima@hoku-iryo-u.ac.jp 本家寿洋 坂上哲可 浅野葉子 中村宅雄 谷口翔平

## 【概要】

本実習では、「運動学Ⅰ」および「運動学Ⅱ」で身につけた知識をもとに、体表からの視診・触診を通して、正常な関節構成体の構造と機能を確認する。また、種々の身体運動・動作を実際に観察、計測して、身体運動・動作の仕組みについてさらに理解を深める。実習はテーマ毎に小グループに分かれて行い、分析結果をグループ内で討議してレポートにまとめる。

## 【学修目標】

### <一般目標>

リハビリテーションの対象となる運動・動作障害に対する評価を実践するために必要な運動・動作の観察および計測方法について学び、正常な運動・動作を分析できるようになるとともに、分析した結果を説明できるようになる。

### <行動目標>

1. 体表から各関節の構成体を触診し、その構造を確認できる。
2. 各関節運動を分析し、その運動学的特徴を説明できる。
3. 関節トルクを計測し、その概念および関節トルクに影響を及ぼす要因を説明できる。
4. 立位姿勢のアライメント評価や重心動揺計測等を通して、姿勢制御の仕組みを説明できる。
5. 種々の身体動作を運動学および運動力学的に分析し、その特徴を説明できる。
6. 運動学習に関する課題を行い、運動学習の特質を説明できる。
7. 機器を用いた歩行分析を行い、正常歩行における運動学的特徴を説明できる。

## 【学修内容】

| 回     | テーマ    | 授業内容および学修課題                        | 担当者                    |
|-------|--------|------------------------------------|------------------------|
| 1     | ガイダンス  | 本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法、予習課題の説明 | 小島 悟                   |
| 2～5   | 体表解剖   | 各関節を構成する組織の触診                      | 小島 悟 坂上哲可<br>中村宅雄 谷口翔平 |
| 6～13  | 項目別実習1 | 粗大筋力検査、姿勢分析、運動・動作分析1、運動学習          | 小島 悟 坂上哲可<br>浅野葉子 谷口翔平 |
| 14～21 | 項目別実習2 | 関節運動、運動・動作分析2及び3、歩行分析              | 小島 悟 本家寿洋<br>中村宅雄 谷口翔平 |
| 22・23 | まとめ    | 項目別実習1、2のまとめ                       | 全担当教員                  |

## 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

平常点 10%

実習レポート 40%

定期試験 50%

実習レポートについては、まとめ1と2の時に模範解答を説明する。

定期試験実施後、問い合わせがあった際には模範解答を開示する。

## 【教科書】

運動学実習マニュアルを配布する。

## 【参考書】

実習の中で適宜紹介する。

## 【備考】

実習は小グループに分かれて、ローテーション形式で実施する。

グループ分けは初回の授業時にアナウンスする。

実習にはTシャツ、短パンを着用して参加する。

予習課題をやっていない者の出席は原則として認めない。

【学修の準備】

各実習項目で課せられている予習課題を行なっておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を实践できる能力を身につけている。

【実務経験】

小島悟（理学療法士）、本家寿洋（作業療法士）、坂上哲可（作業療法士）、浅野葉子（作業療法士）、中村宅雄（理学療法士）、谷口翔平（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士や作業療法士としての実務経験を活かし、身体運動・動作の観察や計測の仕方、ならびにその現象をいかに科学的に捉えるかという思考能力を身に付けられる授業を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している